【小学校･中学校･義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
- Ａ：十分達成できている
- Ｂ：おおむね達成できている
- Ｃ：やや不十分である
- Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立本庄小学校
1　前年度 評価結果の概要	・学ぶ意欲の向上を目指し、学習指導要領に即した資質・能力を育てるために、更なる授業改善の取組が必要である。 ・全職員がＵＤ化の意識を高め、日々の教育活動を通して特別支援教育の更なる充実を図っていく必要がある。
2　学校教育目標	自ら学び（知）、豊かな心をもち（徳）、たくましく生きる（体）　本庄っ子の育成 ～「昨日の自分より、今日の自分」で やりぬく力 を身につける！～
3　本年度の重点目標	①　研究主題「学び続ける学校」の目標達成に向けて、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を視点に授業改善に取り組む。 ②　学習指導や生活指導，環境等において、ユニバーサルデザイン化を推進する。 ③　学校生活における基本的な生活習慣及び「学校の新しい生活様式」の徹底を図る。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が90%以上	・学年経営指針、学級経営指針、業績評価表、学力向上対策評価シートに示したマイプランの整合性と一貫性を取り、定期的な学年部会で取り組み状況を確認し、客観的な評価を入れながら改善していく。		・		・		・
	●全職員による教科等指導力及び学級経営力向上に係る研修会の実施	○研究部提案研修を通して自身の授業力や学級経営力などの長所や課題などを自覚することができる教師が90%以上	・授業力向上授業を全員実施する。 ・授業力に関するチェックシートにより、各項目を視点に自分の授業力について振り返る。 ・D-OODAループを取り入れ、目指す学級の指針や教師個人の指針に向かって、具体的手立てを取り入れ、実践する。		・		・		・
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートで、肯定的な回答80%以上を目指す。 ○自分や友達のよさを見つめる時間を学期に1回以上設定し、思いやったり認め合ったりする心や寛容の心を育む。	・道徳科の授業づくりや単元づくりについての校内研修を行う。 ・道徳通信等で情報を共有する。 ・自他の良さについて振り返る場を設定し、その記述を授業に生かす。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 ○いじめやいじめにつながる行為の有無について、職員間で共通理解を行う場を月1回以上設ける。	・「いじめ・命を考える日」を中心に月1回「心のアンケート」を調査と聞き取りを行い、いじめの見落としを0(ゼロ)にする。 ・いじめ対応の研修により全ての職員が意識を高め、早期発見、早期対応ができるようにする。 気になる児童については、部会や全体会で学級や保健室での様子・対応について共有する。		・		・		・
	◎学ぶ意味を見出し、自分の目標達成に向けて意欲的に、粘り強く取り組もうとするための教育活動	◎学習を通して、成果と課題を実感したり、次の目標を立てたりすることができる子供が80%以上。	・子供自身が主体的に問題解決したり、自己調整しながら学びを深化させる授業実践を行う。 ・各教科における単元の週末や道徳、特別活動等の時間に、学習や学校生活を振り返る機会を設定し自己の変容を捉えさせる。		・		・		・
●健康・体つくり	●規則正しい生活と望ましい食習慣の形成	●「健康に食事は大切である」と考える児童100% ○早寝・早起き・朝ごはんを意識して、規則正しい生活をしている児童が85%以上	・保健便りや給食便り、アンケートを通して、保護者や児童に啓発を行う。特別活動、家庭科、保健等の授業を通して、健康・体つくりの意識をさらに高める。 ・食育だよりの発行と家庭へのアンケートを実施し、自分の生活を振り返り、実践しようとする意識を高める。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限（1か月45時間）以上が年間6か月を超えないようにする。業務改善を意識して働くことができたと回答する職員を70%以上にする。	・退勤目標時刻19:00から逆算し、放課後の時間を効率的に使って業務にあたることを意識する。 ・「例年通り」を見直し、分掌事務等の内容の変更や削減につなげる。		・		・		・

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○全職員による授業や教室環境等のユニバーサルデザイン化の取組	○学級や子供の実態を踏まえ、学びやすい、過ごしやすい授業や環境等のUD化を意識したと回答する教員90%以上。	・個別の支援計画の評価・修正を行い、個に応じた支援や学校全体の指導等の方向性を共有し連携しながら指導・支援を行う。 ・お互いの授業を参観して意見交換をしながら，理解を深め、子供に寄り添ったUD化を行うことができるようにする。		・		・		・
○生徒指導の充実	○全職員による基本的な生活習慣の確立に向けた共通実践	○「児童の生活習慣における課題を把握し改善したり予防したりするために、具体的な実践を行っている。」と答える教員の割合を90%以上にする。 ○QUを活用し「全体集団成立期」まで高めることができたという実感できた教師を80%以上にする。	・D-OODAループを活用しながら生徒指導における視点を事前に示し、実態を把握して研修を行う。 ・「あいことばはそれマル」を合言葉に職員が情報を共有し生活習慣の確立を目指す。 ・学級集団形成のステップを活用し、自分の学級の状態の振り返りができるようにする。		・		・		・

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・